

イタリア新議会召集

発表日：2018年3月23日(金)

～まずは議長選出投票に注目～

第一生命経済研究所 経済調査部
主席エコノミスト 田中 理
03-5221-4527

◇ イタリアでは23日に新議会が召集され、両院議長の選出手続きが開始される。単独政党・会派として各々最大勢力となる五つ星運動と右派会派が両院議長を分け合うことが有力視されている。政権協力の行方を占ううえで注目されるが、投票は無記名で行なわれ、すんなり決まるとは限らない。

3月4日に総選挙が行なわれたイタリアでは23日に新議会が召集される。政権発足に向けた駆け引きが続いているものの、今のところ目立った進展はない。政権協議が本格化するのには、新議会が真っ先に取り組む上下院の議長を選出してからとなりそうだ。議長の選出手続きは以下の通り。

【下院】定数630の下院議員による無記名投票。初回投票と2回目の投票で白票を含めた3分の2以上を獲得した候補が選出される。該当者がいなければ、3回目の投票で過半数を獲得した候補が選出。4回目以降は該当者が現れるまで投票を繰り返す。

【上院】定数315の上院議員による無記名投票。初回投票と2回目の投票で白票を含めた過半数を獲得した候補が選出される。該当者がいなければ、翌日に行なわれる3回目の投票で不在票・棄権票を除いた過半数を獲得した候補が選出。該当者がいなければ、3回目の投票の上位2名による決選投票を同日に行ない、より多くの票を獲得した候補が選出される。

今回の選挙では何れの党・会派も上下両院で過半数を確保できなかった。そのため、上院では4回目の決選投票でより多くの票を集めた党・会派の支持する議長が選出可能な一方、下院では白票や棄権票を除いた過半数の支持が得られる候補がいなければ議長が選出できない状況にある。議長投票は両院とも無記名で行なわれ、各党の所属議員がどの候補を支持したかは分からない。ただ、投票結果と各党の所属議員数を付き合わせることで、どのような投票行動が取られたかはある程度把握できる。五つ星運動や右派会派の議長候補が何票集めるかが、今後の政権協力の行方を占ううえでのヒントとなる。

イタリアの現地紙では、五つ星運動が下院議長を、右派会派が上院議長を分け合うことで両陣営が協力する可能性を取り沙汰されている。両陣営が協力すれば、上下両院ともに過半数を優に上回る。だが、現在名前が浮上している右派会派の議長候補（フォルツァ・イタリアの所属議員）に対しては、公費の不正利用で有罪判決を受けたことを五つ星運動が問題視している。議長選出がすんなり決まるとは限らない。その後、4月1～2日のイースター休暇を挟んで連立協議が本格化するとみられる。

以上